

## 所変われば品変わる So many countries, so many customs. ~多文化共生セミナーより~

様々な国の出身者を講師にお招きし、自国の文化や日本との違いを紹介していただく多文化共生セミナー。11月28日(日)には、県内で陶芸家として活躍する田中アルバさんを講師にニカラグア編を開催しました。「日本のこたつは素晴らしい!」「日本人は時間を守る。」「家のあらゆる場所に時計とカレンダーがたくさんある。」など、外国人ならではの視点で日本や日本人についてお話しくださいました。また、ニカラグアの遊び体験やニカラグア料理の紹介、音楽に合わせて参加者とダンスを踊るなど楽しい時間となりました。

さらに、1月17日(日)には、現役留学女子高生編として、アメリカと中国から県内の高校に留学中の2人が留学生活をとおして感じたことや日本と自国の違い、これからの夢などをスピーチしました。最後に、「生活文化が違うことは当たり前。それを否定するのではなく、理解し、受け入れ、お互い切磋琢磨していくことが大事なことだと思う」と意見を述べました。



▲ ニカラグア編講師  
田中アルバさん

豆やバナナの皮を使った  
本格ニカラグア料理は講師  
アルバさんの手作り →



民族衣装体験



←現役留学女子高生編講師  
左) 邱 倬琳さん  
(中国四川省)  
右) Madison Trenaryさん  
(アメリカオレゴン州)

## 茨城を満喫 本当に魅力度最下位!? ~会員と外国人の交流ツアー~



12月17日(日)、当協会会員と外国人住民の交流を図るとともに、日本文化や日本の良さを知ってもらうことを目的に、国際交流のつどい~日本探訪~を開催しました。今回は、地元・茨城県の魅力を多くの方に感じていただくこと、県内で有数の施設を巡りました。参加した外国人住民24名を含む80名が、美浦トレーニング・センターや筑波宇宙センターを見学し、途中、世界一の牛久大仏を眺めながら、あみアウトレットでのショッピングも楽しみました。

## 地域の外国人住民を支える日本語ボランティア



▲講師の小林かおり先生

日本語ボランティアとは、日本語を母語としない人への日本語習得を支援することを主な活動としています。日本語学習者（外国人）のニーズに対応した日本語指導を行うことが、ボランティア団体が運営する日本語教室の特徴といえます。那珂市では、現在約200名の外国人が生活しており、日本語の学習を望む外国人が増加する中、そのニーズに対応する日本語ボランティアが不足している現状にあります。当協会では、今後ますます高まるニーズに対応できるよう、昨

年10月3日から、これからの日本語ボランティアを育てるための日本語ボランティア養成講座（初級）を開講しました。講師の小林かおり先生（県日本語教育アドバイザー）の元、市内外から参加した30名の受講者は日本語を教えるための基礎知識等について熱心に学び、平成28年1月9日に全過程を修了しました。

### ---- Topic ---- 外国で有名な日本人～台湾で神と祀られた飛虎將軍～



台湾・台南市の北西5キロの郊外で、「君が代」が毎朝流れていることをご存知でしょうか。ここは、太平洋戦争中、台南上空の空中戦で、町を戦火から救うため、自らの命を犠牲にした日本人飛行士故杉浦茂峰氏が祀られている「鎮安堂 飛虎將軍」（鎮安堂＝邪気を鎮め民を安心させる場所、飛虎＝戦闘機、將軍＝神として祀られる勇士の尊称）。杉浦茂峰氏は、先の大戦で、米軍の戦闘機を台湾で迎撃し、被弾。尾翼より発火し、居住地目がけて急降下、爆発が寸時に迫る危機に瀕しました。

今飛び降りたら自分は助かるかも知れない、けれど、多くの家屋が焼かれるだろうと判断した杉浦氏は、すぐに脱出することなく、戦闘機を畑と養殖池方面へ飛行。戦闘機は空中で爆発、杉浦氏は落下傘で脱出するも、敵戦闘機の機銃掃射を浴び、落下傘が破れ、高空から地面に叩き落ち戦死しました。

被弾した戦闘機が落下し、住居地が火の海に包まれることよりも、自分の命を優先させ、すぐに落下傘で脱出することを選べば、機銃掃射を浴びることはなかったかもしれません。故杉浦茂峰氏は、住居地を戦火から救うために、自分の身命を犠牲にした飛行士として、人々の尊崇を集め、彼を祀る廟が建てられました。廟内には日本の国旗が立てられ、毎朝君が代が流されています。

杉浦茂峰氏の本籍地が旧菅谷町（現在の菅谷寄居地区）であるため、茨城県の戦没者名簿には、昭和19年10月12日に台湾方面で戦死したことが那珂市の欄に記載されています。

台湾に旅行に行かれる際には、台南市まで足を延ばし那珂市に所縁がある「鎮安堂・飛虎將軍」を訪れてみてはいかがでしょうか。

生前の杉浦茂峰氏 →

